



秋の味覚、恵那の栗

市内店舗の栗スイーツ巡り

季節はもう秋。芸術の秋、読書の秋などいろいろな言い方があるけれど、みんなは何の秋が好き？今回、エーナは栗スイーツ巡りをしてきたから、「食欲の秋が一番」という方に、栗のお菓子を紹介しますよ。

恵那は、栗の収穫量、おいしさともに全国でもトップクラス。栗の生産や加工の様子を見るために、全国から関係者が視察に訪れることもあるんだって！

そんな恵那で生まれる栗のお菓子は、どれも絶品。栗のお菓子という和菓子をイメージするかもしれないけれど、洋菓子もたくさんあるよ。エーナは、モンブランやパフェ、タルト、チーズケーキ



▲パフェやモンブランなどの栗の洋菓子

キなど市内8店舗を回ってオリジナル栗スイーツを食べてきたんだ。どれもおいしかったから、みんなも食べてほしいんだナ！

えなてらすでは、恒例の「栗くらべ」を買ったよ。各店舗自慢の栗きんとんが一つずつ入って8個セット。栗きんとんを自分で選んでセットにできる「栗きんとんバッキング」もやっているから、楽しんでみながら選べたんだナ。みんなもぜひ市内を巡って、食欲の秋を満喫してね。



▲人気商品「栗くらべ」



▲市街のウェブサイトページのQRコード

観光交流課（内線387）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsで未来が変わる Vol.7

SDGsを推進するため、市が行う事業をSDGsと関連付けて、毎月紹介しています。

問 SDGs 推進室（内線 421）

マイナンバーカードの普及

市では、マイナンバーカードの普及を進めています。マイナンバーカードは、運転免許証を返納した高齢者や、顔写真入りの公的な身分証を持っていない子ども、外国人など全ての方に本人確認を提供するものです。



マイナンバーカードは誰もが持てる公的な身分証明書

関連するSDGsの目標

目標16 平和と公正をすべての人に

ターゲット 16.9
 全ての人々に、出生登録を含む法的な身分証明を提供する。

マイナンバーカードによって、行政手続きがオンラインでできるようになり利便性が向上するとともに、ペーパーレスにもつながります。2025年には運転免許証と一体化される予定で、「デジタル社会のパスポート」ともいわれています。

問い合わせ 市民課（内線146）



マイナポイントの申し込みはお済みですか？

12月末まで※1にマイナンバーカードを申請した方は、利用中のキャッシュレス決済※2に、最大20,000円分のマイナポイントが付与されます（マイナンバーカードの新規取得、健康保険証としての利用申し込み、公金受取口座の登録が必要です）。希望する方は、カード取得後に申し込みください。

※1）9月26日現在の情報です
 ※2）クレジットカードや電子マネー、二次元バーコードなどで、現金を使わず支払う方法



総務省マイナポイント事業ウェブサイト



本紙8月号特集ページ



恵那暮らしビジネスサポートセンター だより

インターネットを使った、物やサービスの販売サイト

ECサイトを活用しませんか

市内事業所のEC参入をサポートします。サイトの立ち上げや出店手続き、活用や集客の方法などもしっかり支援します。気軽に相談ください。



支援メニュー

- 1 自社ECサイトの新規開設
- 2 AeruSHOPや楽天、Amazonなどのネットショッピングモールへの出店
- 3 ECの活用や集客のポイントなど、販売力強化のセミナーや個別相談会を実施

Point
 サイトの立ち上げや出店手続き、その後の活用方法など、専門家が伴走支援するので、安心です。

募集期限

令和5年3月17日(金)



Aeru SHOP online は、恵那エリアの特産品を取り揃えたオンラインショップ。地元の農産物や加工品など地域の魅力に出会えるセレクトです。

問 ギバスクラム恵那 32-1787



問 恵那暮らしビジネスサポートセンター 恵那市大井町 206-5
 ☎ 26-2266（午前9時～午後5時・月曜定休） ✉ info@enalifebizsupport.jp



物知り先生のふるさと情報

（佐藤一斎生誕250年）

言志祭く佐藤一斎まつりへぜひどうぞ

NPO法人いわむら一斎塾 鈴木隆一さん（岩村町）

10月29日(土)、佐藤一斎生誕250年記念第26回言志祭く佐藤一斎まつりが開催されます。

言志祭は平成9年9月、岩村歴史資料館前駐車場にある三学戒碑（佐藤一斎顕彰碑）前で、慰霊祭が行われたのが始まりです。この顕彰碑は前年秋、全国の佐藤一斎ファンの方たちの浄財によって建てられました。それを機に佐藤一斎顕彰会が組織され、以後10月19日の一斎の命日に近い土曜日に開催されています。

第1回の言志祭を思い出しますと神式による慰霊祭の後、「言志四録」の素読会、詩吟や童謡の発表がありました。午後は、岡崎市在住の書道家・教員の鬼頭伸一郎氏が、「書は画なり」という一斎の芸能観を分かりやすく語りました。

平成14年の第6回は、一斎の銅像除幕式を兼ね、2日間にわたって行われました。2日目には、岩村町内5会場で「いわむら一斎塾」を開催し、「企業経営に活かす一斎の訓え」、「陽明学入門、佐藤一斎と山田方谷

を中心に、「一斎に学ぶ家庭教育の知恵」など、大学教授や企業経営者の講義を受けました。

第13回は平成21年。一斎没後150年を記念して、囃鳴フォーラムが誘致されました。それに併せ、言志祭には小泉純一郎元総理大臣が招かれました。「少にして学べば」という一斎の言葉が国会答弁に引用されたことを機に、銅像の銘板の揮毫をお願いしたのが縁でした。小泉氏は読書の大切さや、年齢に関係なく学び続けることの大切さを説きました。

今年の言志祭では、岩村小学校6年生が「言志四録」の群読を披露します。元気な子どもたちの姿から力をもらえます。言志祭の内容は本紙12ページに掲載されています。皆さまもぜひお出掛けください。



▲心に響く児童の群読（令和元年）